

# かお・人・interview

2026年1月8日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
長崎河川国道事務所長

## 上田 章紘氏

UEDA Akihiro

九州の最西端に位置する長崎県は、独自の地形や歴史が息づく街だ。長崎河川国道事務所は、道路や河川の整備を通じて暮らしや地域を支えてきた。今、長崎は西九州新幹線の開業をきっかけに、社会資本整備が大きな変革期を迎えている。西九州自動車道や主要幹線の再整備が着実に進み、地域の成長への期待が高まっている。

上田章紘所長は、地元自治体や各関係団体と連携しながら安全・安心なまちづくりを推進中だ。今後の取り組みや課題について話を聞いた。

### Q 所長就任にあたっての抱負

長崎県は九州の最西端に位置し、数多くの半島や離島を有する、非常に特徴的な地形を持つ地域です。特に長崎市は平地が限られており、インフラ整備においては他地域にはない難しさが伴います。一方で、長崎は江戸時代の鎖国中においても海外に開かれた国際貿易港であり、東洋や西洋のさまざまな文化を伝えた歴史を持っています。そのため、今なお異国情緒が感じられる独自の歴史と文化が息づく街でもあります。また、二つの世界遺産や九十九島をはじめとする美しい自然に恵まれ、観光都市としても大きな魅力を有しています。

現在、長崎県は「100年に一度」といわれる大きな変革期を迎えています。新幹線の開業に合わせて、JRの連続立体交差化や駅前エリアの再開発が進められ、インフラの力によってまちの姿が大きく変わりつつあります。都心部のみならず、幹線インフラの整備も各地で動き始め、これらの新たなインフラが地域にもたらす可能性に大きな期待が寄せられています。こうした中で、将来の長崎を支えるために、どのようなインフラを次世代に残していくべきか、地元の皆さまや関係者の方々と十分に議論を重ねながら、確かなまちづくりを進めてまいりたいと考えております



▲開通した松浦佐々道路(松浦IC～平戸IC)

### Q 長崎県や九州地区との関わり

私は熊本市の出身ですが、中学、高校時代の6年間を長崎で過ごしました。また、これまでの経歴の中で、九州地方整備局鹿児島国道事務所でも3年間勤務した経験があります。国土交通省の業務は全国を対象にしていますが、やはり地元である九州のために働けるとなると一層力が入ります。特に長崎は、私にとって「第二の

昭和32年に発生した諫早大水害では多くの方が命を落とし、その後本明川の管理は国が担うことになりました。地域の皆さまの安全・安心のため、今後も責任を持ってしっかりと取り組みます。

故郷」とも呼べる土地であり、その発展のために力を尽くしたいという思いが強くあります。中高時代は長崎県時津町で寮生活を送っていました。門限が早かったこともあり、なかなか長崎市中心部へ足を運ぶ機会は多くありませんでした。当時、国道206号は中心部で非常に渋滞しており、現在も混雑しているとは聞きますが、あの頃の方が交通状況はさらに悪かったと記憶しています。

しかし、今では南北幹線道路や西九州自動車道の整備が進み、長崎駅前も大きく様変わりしました。かつての面影が薄れるほどの変化に、時の流れと地域の発展を改めて実感しています。

## Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

長崎河川国道事務所は、道路・河川・砂防の分野を統括する総合事務所であり、旧建設省所管の中では長崎県内で唯一の事務所です。離島を除く県本土全域を管轄し、幅広い事業に取り組んでおります。また、私自身は本省の離島振興課での勤務経験があり、将来的には離島に関わる業務にも挑戦したいと考えています。

若い世代の職員も多く在籍しているため、所内では講義形式による勉強会を月に1～2回の頻度で開催。これらは、職員間のコミュニケーションを深めるとともに、仕事の進め方について丁寧に指導する貴重な機会となっています。

### ●道路事業

西九州自動車道の整備や、国道34号、57号、205号の改築事業や、国道57号の防災事業、その他直轄管理区間の交通安全事業、電線共同溝(無電柱化)事業、老朽化対策、維持・修繕など、多岐にわたる業務を進めています。

### ●河川事業

昭和32年の諫早大水害を契機に国直轄管理となった本明

川を対象に、治水対策や環境整備、維持管理を行っています。また、地球温暖化の影響による異常洪水に対応していくため流域治水の取組を流域関係機関と連携して取り組んでいます。

### ●砂防事業

平成2年に198年ぶりに噴火した雲仙・普賢岳での火砕流・土石流への対応として、溶岩ドームの挙動監視や砂防設備の点検、調査、維持・補修を継続的に実施しています。

## Q 事業概要(簡略)について

### ●松浦佐々道路

西九州自動車道の一部を形成し、九州北西部地域の活性化や高速交通の定時性確保に寄与する道路です。また、北松地域で唯一の幹線道路である一般国道204号の代替機能も担っています。今年度は、松浦ICから平戸ICまでの延長7.5km区間が、令和7年12月14日に開通。



▲松浦佐々道路(平戸IC)

### ●大村諫早拡幅

長崎県の中央に位置し、交通の要衝となっている大村市と諫早市を結ぶ幹線道路である国道34号の一部区間で

す。本区間は、前後を4車線区間に挟まれた2車線区間となっており、交通渋滞の緩和および線形不良区間の解消を目的とした4車線化拡幅事業を計画しています。今年度からの工事着手に先立ち、11月9日に着工式が実施されました。

### ●富津防災

雲仙市小浜町から千々石町間を連絡する唯一の幹線道路である国道57号線において、防災上危険な箇所を回避し、災害に強い道路ネットワークの確保を目的とした道路整備を推進します。今年度は、用地買収に着手します。

### ●本明川河川事業

本明川の支川である半造川の引堤事業や築堤事業を行うとともに、環境整備事業として本明川下流域左岸の干陸地（深海地区）の利活用に向けた計画づくり等を実施します。

### Q 地域との連携・協働面について

長崎の各地域には「道守」と呼ばれる道路管理協力団体が設置されており、それぞれの地域で道路の清掃や美化などのボランティア活動を展開しています。また、日本風景街道に登録されている「ながさきサンセットロード」や「島原半島うみやま街道」でも、地域住民や企業の皆様と一緒に清掃活動を実施し、景観維持に努めております。

さらに、本明川では「NPO法人拓生会」が河川協力団体として登録されており、河川の保全や環境の向上に自発的に取り組んでいます。直近では、10月25日に高来町深海地区でコスモスまつりを開催するなど、地域との連携を深めながら多様な活動を行っています。

### Q 九州の建設業界へ要望やメッセージ

近年、集中豪雨や台風などによる風水害が激甚化・頻発しています。こうした災害の際、地域の建設業協会が率先して現場に駆けつけ、応急復旧や本格復旧に向けて大変な努力を重ねてください。このように、地域のインフラを守る皆さまが持続的に活動できる体制を確保するこ

とは、地域防災の要といえるでしょう。若い世代が積極的にこの分野に就職し、地元に根付いて活躍できるよう、私も国土交通省の立場からイメージアップや待遇改善など、さまざまな支援に努めてまいります。

今後も皆さまと共に、安心・安全な地域づくりを目指して力を尽くしていきたいと考えています。



▲富津防災（小浜地区）



▲ながさきサンセット道路清掃活動

### Q 健康法や座右の銘など

単身赴任で長崎に来てからは、これまで以上に自身の健康管理を意識するようになりました。仕事や帰省の都合で、土日はなかなか自由な時間が取れませんが、週に3回ほどはウォーキングやランニングなどの運動を心がけています。また、子どもの頃から続けている草野球も、私なりの健康法の一つと言えるかもしれません。30年以上グローブとボールが身近にあり、以前は息子の少年野球チームで監督やコーチも務めていました。現在は職場の野球部に所属し、毎週の練習にも積極的に参加しています。野球部出身の経験豊富な若手職員たちの勢いにも負けなよう、

日々奮闘しています。

久しぶりの九州赴任となりますが、学生時代の友人が各地に散らばっているため、彼らとの再会を楽しみにしています。旧友と過ごす時間で心身ともにリフレッシュしつつ、今後も運動や趣味、友人との交流を通じて、無理なく健康を維持していきたいと考えています。

#### プロフィール



熊本市出身 43歳  
H18年4月 国土交通省入省  
H24年4月 九州地方整備局鹿児島国道事務所調査課長  
H30年7月 国土政策局 離島振興課 課長補佐  
R4年4月 (一財)国土技術研究センター 道路政策グループ

R6年7月 都市局 街路交通施設課 企画専門官  
R7年8月 現職